

競 技 注 意 事 項

本大会は、2017年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、国体準備のため「補助競技場の使用について」を確認すること。砲丸投の練習は、係員の指示に従って補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う使用の際は係員の指示によって行う。

補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
- ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～6レーンのみとする。
- ・多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9レーンは女子110mYH、10レーンは男子110H、11レーンは男子110JrHとする。
- ・第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。

※：補助競技場内での、走路・芝生・共有スペースでのミニハードル・ラダー等の道具を利用した練習は、禁止する。

投てき練習については以下の通りである。

- ・円盤投・ハンマー投は、**動きづくりのみ**行うことができる。円盤・ハンマーを利用した練習は、競技場内での公式練習のみとする。※円盤投・ハンマー投は、用具を使用した練習は禁止とする。
- ・やり投は、**動きづくり・突き刺しのみ**とし、助走からの投てき練習は禁止とする。

雨天練習場の使用について

- ①雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ②雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
- ⑤ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ハードルは使用できない。

棒高跳について

競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は、12mm以下とする。

3 ナンバーカードについて

- ・ナンバーカードは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- ・トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横や後方につけること。

4 選手招集について

- ① 選手招集場所は、第2ゲート付近とする。
- ② 招集時刻は下記のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	競技開始30分前	競技開始20分前
トラック種目 (決勝種目)	競技開始25分前	競技開始15分前
フィールド種目 (下記以外)	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド種目 男子 走高跳・走幅跳・三段跳 やり投 女子 走高跳・走幅跳	競技開始50分前	競技開始40分前
フィールド種目 (棒高跳)	競技開始70分前	競技開始60分前

※棒高跳は、現地で招集を行う。

ただし、以下の競技の招集完了時刻には注意すること。

1000m・2000m		4000m・8000m		1500m	
1～6組	競技開始20分前	1～4組	競技開始20分前	1～2組	競技開始20分前
7～12組	競技開始5分前	5～8組	競技開始5分前	3組	競技開始5分前
13～18組	競技開始10分後				
19～22組	競技開始25分後				
23組	競技開始40分後				

- ③ 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- ④ 2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出る。

5 競技について

- ① 競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ② その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③ トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。
「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ④ スターターの合図は英語とする。(「On your marks」、「Set」)
- ⑤ 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑥ 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- ⑦ トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定により写真を拡大し細部(電気時計1/1000)まで読み取り着差の判定をする。
- ⑧ レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑨ 競歩において、先頭選手が最終周に入った残り100mは、競歩審判主任も判定に入る。
- ⑩ 下記の種目については、予戦をタイムレースで行い、上位8名で決勝を行う。
男子 200m・400m・800m・110mH・中学110mH・400mH
女子 200m・400m・800m・100mH・中学100mH・400mH
※男女100mはタイムレースにより上位16名を決定し、決勝を次のように行う。
上位8名をA決勝(1～8位を決定)、下位8名をB決勝(9～16位を決定)として行う。
- ⑪ 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑫ 男子棒高跳(1日目)は、Bゾーン、女子棒高跳(2日目)はバックスタンド前、女子走幅跳(1日目)はバックスタンド前にて実施する。
- ⑬ 携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。コーチエリアからのコーチの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することは

できない。

⑭フィールド競技における競技中の選手への水分の差し入れについては、競技該当審判員を通じて選手に手渡すことができる。

⑮走高跳の最初の高さは、男子：1 m 5 0、女子：1 m 2 0からとする。

⑯走高跳・棒高跳のバーの上げ方については、下記の通りである。

		練習									以 降
走高跳	男子	145	150	155	160	165	170	175	180	185	3 cm刻み
	女子	115	120	125	130	135	140	145	150	153	3 cm刻み
棒高跳	男子	200	220	240	260	280	300	320	340	350	1 0 cm刻み
	女子	180	200	210	220	230	240	250	260	270	1 0 cm刻み

※棒高跳の練習については、出場選手と相談のうえ、競技中に公式練習を行うようにする。

⑰三段跳の踏み切り板の位置について、男子：1 1 m、女子9 mとする。

6 競技用具について

① 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検定は競技開始6 0分前に招集所にて実施する

② 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：1 5 0 0 mおよび棒高跳・投てき競技

第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳

第4ゲート：1 0 0 m付近からスタートするトラック競技および走幅跳、三段跳

※選手の競技場への入退場は、必ず審判員の指示によって行う。

8 その他

① やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。

② 応急処置を要する健康上の問題が発生した時は、スタンド下の救護室に連絡すること。

③ 更衣室は正面玄関に入って左側にあるので利用してもよい。ただし、貴重品の管理は各自の責任で行うこと。

④ 記録は、競技場メインスタンド下、正面玄関付近に掲示する。

○競技会で使用される主な略号について

日本語表記	略号
欠 場	DNS
途 中 棄 権	DNF
記 録 な し	NM
失 格	DQ
標準記録突破による通過者 または順位による通過者	Q
記録による通過者	q
愛媛県新県記録（愛媛県タイ記録）	PR（=PR）
愛媛県高校新記録（愛媛県高校タイ記録）	PHR（=PHR）
愛媛県中学新記録（愛媛県中学タイ記録）	PJR（=PJ）
大会記録	NGR